

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0870102001		
法人名	有限会社エリア・ネットワーク・サービス		
事業所名	グループホーム あしたば	ユニット名()
所在地	〒310-0913 水戸市見川町丹下ノ牧2131-1303		
自己評価作成日	平成 30 年 3 月 25日	評価結果市町村受理日	平成 30 年 7 月 19 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kihon=true&JigyosyoCd=0870102001-00&PrefCd=08&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成30年5月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様お一人お一人の意思を尊重し、理念にある「明るく笑顔の絶えない家庭的な環境」に基づき、利用者様の“家”として寄り添いながら安心して暮らせるように努めています。
職員は、利用者様の気持ちを感じ受け止めつつ、「してあげる」ではなく「一緒に、また困難なことは支え合いながら」と言う姿勢で共に支え、洗濯・掃除・季節ごとの行事などを行っています。 同施設内のデイサービス・ショートステイの御利用者の方々と、合同のリハビリ体操、季節ごとの食事会、秋祭り(年度ごとにテーマを決めて開催・秋祭りの中で敬老のお祝い)等、近隣の方を招いて地域の方との交流を深めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームはデイサービスやショートステイ等と併設されており、ショートステイの空きスペースを利用し「明日葉カフェ」をオープンしている。カフェは家族等や友人・地域の方どなたにでも開放し、交流の場のひとつとなっているばかりでなく、利用者の楽しみ、寛げる空間のひとつとなっている。事業所では地域の夏祭りに利用者と職員で参加するだけでなく、秋に行う「あしたば祭り」や2ヶ月に一度開催する食事会には、近隣の方々を招待し日頃から地域住民との交流に努めている。利用者の生活が単調にならぬよう、定期的にシルバーリハビリ体操や楽器演奏のボランティアを受け入れたり、天気の良い日には事業所内を散歩し飼っている犬と触れ合ったり、ベンチで庭の草花を眺めるなどして外気浴を楽しんでいる。

yuu

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	業務の内容を指示する際、理念と重ねて意味を理解している事を確認しながら話をするよう努めている。	職員は、理念をネームの裏に携帯しているほか、朝礼や会議時に確認するなどして意識付けを行い、理念の中にある「笑顔を大切に」を特に大切にしながらケアに活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	当施設の「秋祭り」には近隣の方々を招待し、夏に行われている地区の「丹下祭り」にも参加し交流を深めている。「七夕」「クリスマス」「ひな祭り」等季節のイベントとして近隣の方、家族を招待し食事会を設けている。	定期的に近隣の独居の方や家族等、民生委員を招待して食事会を行っている。地域の祭りや事業所の祭りで近隣住民と交流を持っている。近隣中学校の職場体験を受け入れており、事業所の祭りの時にはボランティアで参加してくれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2～3ヶ月に1度、近隣の方を食事会、秋祭りに招待した折、認知症特有の施設での過ごし方を見て頂き、グループホーム本来の意味や役割を理解して頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回(2ヶ月に1度)実施している。入所状況、行事予定などを報告した上で、その中で出た議題や案内、内容については積極的に取り組んでいる。また、介護保険課の方、民生委員の方からの情報、家族の意見・要望を取り組み、毎日のサービスに取り組んでいる。	会議に参加してもらう家族等は毎年変え、ずっと同じ人にならないような工夫をしている。事業所からの報告や、委員からの意見について話し合っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には市の担当者には出席依頼し参加をして頂いている。行政からの意見や対策など情報をいただいたり、こちらからの問い合わせに答えていただいたりして情報交流を行っている。	空き状況を毎月FAXで周知したり、困ったことはその都度電話で相談している。市も参加しているグループホーム連絡協議会の講習会等に参加し情報交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設が交通量のある道路に面しているため、ご家族の理解を頂き、玄関はオートロックを採用している。外出は利用者の希望による随時職員が付き添っている。 現在1名の方が、這い出し行為があるため、畳+布団にて対応していたが足の骨折によりベッドでの対応に変更したため四点柵使用により、家族への同意を頂き経過・検討を実施し記録に解除できるよう努めている。	管理者が外部研修に参加し、職員会議時に内部研修として伝達研修を行うほか、敷地内の他事業所と合同で勉強会を実施している。現在やむを得ず身体拘束を行っているが、家族等の同意を得て、経過観察記録をつけ、毎月再検討をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加した職員より、研修報告と内部での研修により知識を深め、毎日の業務の中で認知症疾患を理解し、利用者をよく知り会議等で意見を出し合うことで虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加した職員より、研修報告を兼ねて内部研修を行い知識を深めるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約時に入居者様とその家族様に契約内容の説明を行い、不安や疑問点に関してはご理解・納得・安心して頂けるよう、時間をかけて説明をおこなっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情受付箱を設置し、ご家族様の来訪時や行事イベントへのご招待時などに気軽に会話できるような雰囲気をつくるよう努めている。また、面会時には近況報告をし、意見・要望を伺うよう努めています。	運営推進会議に参加している家族等からの意見や、食事会のときに出た意見を、職員間で話し合い、対応している。面会時にも話を聴くように努めているが、なかなか意見や要望があがってこない現状である。	意見を言い難い家族等に配慮した、無記名アンケートを行うなど、家族等の意見や要望が出易くなるよう工夫することを期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回のカンファレンスを実施し、管理者は職員の感じている疑問や意見を聞き、話し合いその後の業務に活かし改善に繋げている。また、些細なことでも管理者に意見を言ったり相談できるようにしています。	毎月の職員会議時に管理者が、年1回代表者が面接を行い、職員から意見を聴いている。都度、シフト等の意見に対応しているが、全体の意見を汲み取るまでには至っていない。	職員のシフト等に配慮しその都度対応しているが、職員の負担軽減の為にシフトや人員の見直しを期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	シフト作成時は職員の希望休日を確認し可能な限り希望休日をシフトに反映させています。 必要があると判断した職員に関しては、面談をし、悩み等の状況を把握し笑顔で業務にあたるよう配慮するよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修修了者には全体会議での発表やカンファレンスでの報告をする等知識の共有を目指しています。また、月1回、質の向上を目指し内部研修を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	当施設のデイサービス・ショートステイが併設しているため、行事の共催や食事会などを実施したりして交流を深め、情報交換をしています。外部研修会などに参加し外部施設より情報を頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所する前に、ご本人・ご家族に面談し、ご本人のこれまでの暮らし、どのようなことが好みかどのようなことが好まないのかご本人をよく知ることによって不安になった際にも会話に役立てるよう努めています。その方に寄り添い、話を伺うことを第一としている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談を受けた時から入所されるまで、どのような点に困っているか、どういった点を求めておられるか、どんな小さなことでも耳を傾け、一緒に解決していけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事情を伺う中で、必要に応じて地域包括など公的機関と連携し、少しでも安心して頂けるようサポートしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	事前のアセスメントをもとにその方らしく過ごして頂けるよう、本人の意思を確認しながら、危険のない範囲でお手伝いや作業などをして頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事の際はご家族も招待し、共に過ごして楽しい時間を味わって頂くことに努めている。日常生活においても面会時・電話・月1回のあしたばだよりにて様子をお知らせし、その都度ご家族の意向も確認しながら支援を継続している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	職員からは馴染みの方に連絡はとっていない。ご家族と一緒に近所の方が来訪されたり、自宅に外出・外泊により馴染みの方とお会いして関係を継続されている。施設に来訪された際には、お名前等を記録し、どのような馴染みの関係かお聞きし、職員間の情報を共有し、気安く来訪できる環境にしています。	面会に来た人などから関係を聴き取りして記録に残し、職員間で周知している。自宅への外出や外泊、家族との外食など、関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常のレクリエーションや行事などを通し関わり合いを深め、体調が悪く受診・入院をされもどられると「おかえりなさい」と笑顔で迎え心配される、家族のような心温まる場面が見られる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	体調不良により病院へ入院、その他の施設への入所されたかたなどに入所中のご本人の状況(食事・排泄・入所中の様子など)を伝えたりご家族からの相談やご様子までの経過を説明するなど支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンス等において、日々の支援の中で気になる点、注意しなくてはならない点等について話し合い全職員で支援の方向を統一し、コミュニケーションの中で本人の要望や意向に添うよう本人本位の支援に努めています。	日頃のケアの中で把握した利用者の思いや意向は、職員会議で周知するとともに、ケース記録の申し送り欄で周知を図って、利用者の意向に沿ったケアに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査、ご本人、ご家族からの聞き取り、自宅・他施設に訪問し生活環境やサービス利用の経過に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタル測定・申し送りや日々の記録から、利用者の心身状態が把握できるようチェック機能を構築している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族面会時等にご家族様の意見・要望をお聞きした上で、毎月1回カンファレンスを通し意見交換、モニタリングを行い、介護計画書を作成しています。サービス内容に変更があった場合には、現状に即した介護計画書を作成し、ご家族への説明と確認を得ています。	毎月カンファレンスを実施し、モニタリングを行い、医師や看護師の意見を取り入れ、計画を作成している。家族等には面会時や電話で説明をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌・個別記録に記入している。月1回のカンファレンスにて職員情報をもとに介護計画の見直しを図り、追加または変更がある場合には介護計画を作成する。その方に合ったよりよいサービスを提供できるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同事業所内のデイサービス・ショートステイと合同で、食事会やレクリエーションを実施したり、施設内喫茶に参加したり、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設内行事である2ヶ月に一度の食事会に近隣(特に独居の方)を招待招待したり、地区内の中学生のボランティア活動の受け入れている。見川地域の夏祭りへの参加も毎年恒例となり、季節の行事参加も心掛けています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に一、二度、協力医療機関の受診を、ご家族に変わり受診し、身体状況、日常生活の様子など医師に伝えることでスムーズにかかりつけ医との関係を築いています。ご家族様が今までのかかりつけ医を希望される場合には家族が付き添い、身体状況・日常生活の様子などを伝え、受診結果を記録し全職員で共有している。	これまでのかかりつけ医への受診には、家族が付き添っている。協力医療機関への受診は月1、2回管理者が付き添っている。家族等へは電話で報告をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同事業所内に看護師がいるため、日常生活において、細かな異常や異変に気付くと報告し見て頂くという構築をしている。定期受診については、毎日の様子を見ている管理者が、かかりつけ医やご家族に相談しながら対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	指定医が医療機関と連携しています。病院関係者との情報交換は主に管理者が行い、入退院時の付き添いなども行っています。入院時には定期的に様子を見に行き、医療関係者との情報交換や情報共有をし、信頼関係を築いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所としては看取りはしない方向である旨入居時に家族へは説明しているが、利用者様家族等の希望に沿った支援を心がけている。かかりつけ医と相談し、医療機関と連携を取りながら希望に添えるよう支援している。	看取りは行わない方針であり、契約時に「緊急時同意書」「終末期入院同意書」について説明をしてサインをもらっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを設置してある。緊急連絡網をわかりやすい場所に提示し、急変時に備えて実践している。普通救命救急講習に参加、内部勉強会の参加により実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内で防火訓練・放水訓練・水消火器による消火訓練などを実施し災害対策をしています。近隣への災害時協力もお願いしている。備蓄品リストを作成し備蓄品の管理を行っている。	事務室には緊急連絡網、ホールには避難経路図が掲示されており、災害時には玄関のオートロックは自動解除される。一覧表を作成して備蓄品を保管しており、2ヶ月に1回点検を行っている。避難訓練は年2回実施されていない。	地域住民との協力体制を構築するとともに、年2回の避難訓練の実施を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	場面に応じ言葉や声の大きさなどに注意し、ご利用者のプライバシーや尊厳を大切にすると同時に否定しない対応を心掛けている。また、個人情報の取り扱いなど内部での勉強会で全職員に周知し注意している。	内部研修を行い、利用者の誇りやプライバシーを損ねない言葉かけに配慮している。個人情報保護に関する同意書がある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食べるものに関しては行事を行う際、食べたいものを選択して頂き希望に沿うようにしている。レクリエーションや作業は強制せず無理のない範囲で選んで頂いている。また、普段の関わりの中では、利用者様の様子や言動から思いを伺うと共に、考えがまとまらない時、さりげない言葉かけを心掛け、本人の希望を話易くしたりして自己決定できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	“その人らしく過ごせる”がホームの理念にもなっている。、利用者様の思いを大切にし、自己表現を促すよう声掛けに注意している。また、その日の体調や希望により、時間配分やサービス提供内容を見直したりしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の希望を優先し、毎日清潔保持に努めている。意思疎通困難な方は、職員が衣類を整え身だしなみを行っている。利用者様の希望により出張散髪に来てもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	同事業者の栄養士が献立を作成しているが、1～2ヶ月に1回外注にてお弁当等注文し、召し上がる。同事業者合同の行事には、バイキング・季節のお弁当を栄養士が作り、家族を招待して楽しみながらの食事提供に努めている。個人のカップ・箸・お盆・茶碗を用意できる範囲で片付け等を行って頂いている。昼食時は職員も一緒に楽しく話しながら食事を摂っている。	利用者の好みを考慮した食事を提供しているとともに、体調にも配慮している。食事の準備や後片付けには、利用者のできる範囲で参加している。行事にはバイキングや季節のお弁当を作り、家族等を招待して食事会を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの栄養状態や健康状態に合わせ食事量など栄養士の指導を受けている。食事量・服薬チェックなど、毎日記録を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きや義歯洗浄を行っている。夜間は義歯を外しポリドントに付けて消毒を行っている。自分でできる方は、声をかけたり、自室に誘導しての対応をし、自分で行うのが困難の方は、職員が支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様の生活リズムに合わせた時間にトイレの声かけ・誘導をし、トイレ内にて排泄が大切と考え、一人一人の排泄パターンを把握している。	トイレでの排泄を基本とし、一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っている。便秘の症状が見られるときには歩行を多くしたり、腹部を暖めるなどして自然な排便ができるよう支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者様の排便状況を記録し、一人ひとり状態を把握するように努めている。また、ストレスの軽減を心がけ、個々人に合わせた気分転換や運動などを行っている。日頃より水分摂取を促し、便秘時には腹部マッサージなどを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日のバイタル測定にて、体調変化を見極めて行い、本人本位で入浴できるよう支援している。また、体調により一般浴が機械浴かを判断し、安心して入浴できるよう努めている。	入浴は基本的に週2回、午前中としている。利用者の希望に沿えるようにしているが、人員配置の関係上難しいときがある。機械浴や個浴にも対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様個々の生活習慣や睡眠状態に応じて居室での昼寝や休息時間を設け、時間にとらわれずに休んで頂けるように支援している。フロアに設けたソファアームで寛げる環境を作り、睡眠上状態をチェックし日中の過ごし方なども考えた支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の個人服薬表を個人別にファイルし、全職員が確認、薬効などを理解し把握できるようにしている。毎食時の服薬時には職員間で確認し、安全に服薬できるように支援している。大きな症状変化は速やかに看護師に報告すると共に、カンファレンス時などに情報共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションやリハビリ体操・同事業所での音楽教室等、皆さんに声掛けし本人の希望にて参加し楽しめる。日々の生活の中で、清掃・ゴミ捨て・洗濯物干し・衣類たたみなど、一人ひとりにあった役割や生きがい・喜びなど、楽しく生活がおくれるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設周辺の散歩や敷地内を利用しての日光浴、桜の時期には花見・ドライブまた、家族との年末年始・お盆・定期的な外出・外泊を支援している。	事業所内で飼っている犬と触れ合いながら外気浴をしたり、近隣に散歩にでかけている。年間行事計画をたてて花見やドライブに出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、金銭管理をできる利用者はいないため、施設管理としている。立て替え制度を導入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に合わせて、職員が電話をかけ、取り次いで話をして頂いています。また、個々に配達される郵便物や荷物などは状況に応じてご家族に連絡してから本人に渡しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア内にはゆっくり寛げるソファを設置し、テラスからは花壇が眺めることができるなど季節を感じられ自由に過ごせるようになっています。壁面には共同で作成した壁画、中学生がボランティアで来所された際、一緒に作った折り紙などを飾り楽しんで頂けるようになっています。また、キッチン是对面式を採用し、利用者様・職員双方ともよく見ることができ、安全面にも配慮した構造になっています。トイレ・浴室は清潔保持に努め、手すりを設置し、トイレは車椅子でも対応が出来るスペースを確保しています。風呂は個室浴槽でお一人ずつ快適に入浴することができるようになっています。	居間兼食堂は広く、開放的で、壁に手摺がついており、歩行訓練もできるようになっている。ソファやテーブル、カラオケなどが設置されている。敷地内には花壇やベンチチェストが置かれ、日光浴ができる。犬を飼っており、利用者の癒しとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ふろ内のソファや椅子の位置などお一人お一人の場所がある。食事の際は、ご自分から自分の定位置に座ることが多いが、食事以外には、本人の寛げる場所、会話が楽しめる場所を自由に決めて頂き過ぎて頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居当時より、本人、ご家族に馴染みのものや思い出のあるものを持ってきて頂き、自由にコーディネートされ過ごしやすい場所にして下さいとお願いしている。家族の写真、亡き夫が頂いた賞状などを飾り居心地のよい居室作りを心がけている。	管理者は使い慣れたものを持ち込んでもらえるよう、利用者や家族等に説明をしており、火気以外は何でも持ち込んで、自分らしい部屋にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアに畳を設置していたが車椅子を利用している方多くなってきたことにより自走する際、幅が狭く自走ができない、歩行時、少しの段差でつまずきそうになったりすることで、本人が出来ることを狭めてしまうため、畳を撤去し、安全に活動できるように環境整備を行い、自分でできることを増やし活動的に過ごして頂いている。		

(別紙4(2))

目標達成計画

事業所名 グループホームあしたば

作成日 平成 30 年 7 月 15 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくなならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害対策に関して	<ul style="list-style-type: none">・年2回避難訓練を実施する。・地域住民の方たちにも協力して 頂ける関係作りを行っていく。	<ul style="list-style-type: none">・地震時と火災時の対応マニュアルを職員間で共有できるようにし、委員会にて年2回避難訓練を計画する。・運営推進会議・行事等などで、民生委員の方々を中心とした、近隣の住民との交流を図るよう努める。	6ヶ月
2	10	利用者・家族等意見の反映に関して	<ul style="list-style-type: none">・年1回アンケートを行う・要望や意見が言いやすい環境と関係を作る。	<ul style="list-style-type: none">・無記名のアンケート実施や、現在設置している意見箱を今以上に利用して頂けるよう声かけをする。また、ご家族様に過ごされているご様子をお伝えし、頻繁に要望をお聞きする。	6ヶ月
3	11	職員意見の反映に関して	<ul style="list-style-type: none">・人員の確保をしていく。・身体機能の維持を図り、介護負担を軽減する。	<ul style="list-style-type: none">・求人誌や職業安定所等を利用し、人員の確保を目指す。・身体機能が維持できるように、その方に合った機能訓練や生活上での役割を明確にし、支援をする。	6ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注1) 項目番号の欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。